

北海道港湾空港建設協会

会報

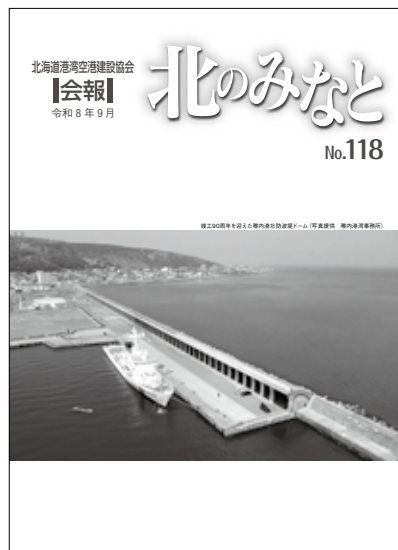
令和8年9月

北のみなと

No.118

竣工90周年を迎えた稚内港北防波堤ドーム（写真提供：稚内港湾事務所）





竣工90周年を迎えた稚内港北防波堤ドーム

稚内港は、政府指定航路として、明治18年小樽～利尻、礼文、稚内航路が開設され、大正12年には稚内～大泊（現 コルサコフ）航路も開設されました。その後、昭和32年、我が国最北の重要港湾に指定され、道北地域における物資流通の拠点、北方漁業の基地、そして利尻・礼文への連絡港として、地域産業の発展に大きな役割を果たしています。

また、平成2年からは総合的な市街地活性化対策のための「稚内マリンタウンプロジェクト」に基づき、みなとを中心とした再開発が進められ、平成6年度までに国際文化交流施設や厚生施設の建設、平成20年にはフェリー機能を集約する中央ふ頭地区の供用（離島フェリー・国際ターミナルを含む）を開始しています。

北防波堤ドームは昭和6年から昭和11年、大泊港との貨客船発着場及び発着場に至る道路、鉄道等の施設を波浪から守るために整備され、当時としては世界に類を見ない古代ギリシャ建築を思わせる構造形式が採用されました。

その後、平成13年に北海道遺産に指定され、平成15年には土木学会選奨土木遺産にも認定されています。現在は観光スポットとなり、イベント会場等として観光客や一般市民の利用頻度が高い施設となっています。

北防波堤ドームは今年、竣工90周年を迎え、記念講演会をはじめ種々のイベントが開催されました。

— 目 次 —

就任挨拶（北海道開発局 港湾空港部長 佐藤 徹）…………… 1

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第43回通常総会開催 …………… 3

将来の北海道を支える港湾・漁港・空港建設業の
体制を考える研究会（第6回）…………… 4

受賞

令和8年 春の叙勲 旭日双光章（㈱工藤組会長 福西秀和氏）………… 6

令和8年 「海の日」海事関係功労者大臣表彰 …………… 7

令和8年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰 …………… 8

令和8年度 北海道開発局優良工事等表彰 …………… 9

令和8年 「海の日」港湾空港関係功労者局長表彰 …………… 12

北海道開発局 i-Con奨励賞2026 …………… 13

令和8年度 関係協会表彰 …………… 16

・（公社）日本港湾空港建設協会連合会会長賞表彰 港湾功労者賞

・（公社）日本港湾協会 港湾功労者表彰

・（公社）日本港湾協会企画賞 産学官連携による土木模型製作プロジェクト

・（一社）日本海上起重技術協会 会長表彰

・（一社）全日本漁港建設協会表彰

・全国浚渫業協会 港湾功労者 表彰

令和7年度 全建賞 …………… 22

・北海道歯舞地区直轄漁港整備事業

Topics

稚内港北防波堤ドーム90周年 記念事業 …………… 23

各種記事

我が社の安全衛生管理（葵建設㈱）…………… 24

私の趣味（㈱不動テトラ 北海道支店長 梅田 淳）…………… 26

Information

事務局だより・訃報（岩倉建設㈱ 故 宮崎英樹氏）

業界だより・広報委員会だより …………… 28

就任挨拶

北海道開発局 港湾空港部長 佐藤 徹



<はじめに>

国土交通省北海道開発局港湾空港部長に4月1日に着任しました。

北海道港湾空港建設協会並びに会員の皆様には、日頃より北海道における港湾・空港行政の推進にあたり、多大なるご支援とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

北海道は農業産出額が全国の約15%を占め、多くの農畜産物で全国最大の生産地となっており、また水産物も全国一の生産量を誇る、我が国の食料供給基地としての役割を担っています。また、雄大な自然や美しく個性豊かな景観に恵まれており、訪日外国人の旅行先として高い人気を誇っています。さらに、風力等再生可能エネルギーが豊富に賦存しています。

北海道開発局港湾空港部としては、令和6年3月に閣議決定された「第9期北海道総合開発計画」に基づき、食料安全保障、観光立国、カーボンニュートラルなど我が国の課題解決を先導するため、「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」、「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」の実現のために取り組んで参ります。

<港湾の取組>

港湾については、「基幹物流」、「食」、「観光」、「国土強靱化」について、重点的に取り組んでいます。

「基幹物流」について、苫小牧港において、トラックドライバーの不足や労働時間の規制に対応した柔軟なダ

イヤ設定を可能とすることで、北海道と本州間の物流効率化を図るための「東港区浜厚真地区複合一貫輸送ターミナル整備事業」を、石狩湾新港では、増加する鉄スクラップの遠方国への輸出効率化等に資する「東地区国際物流ターミナル整備事業」を、引き続き推進して参ります。また、道内各地域の基幹産業の競争力強化に必要な整備を推進して参ります。

「食」について、北海道の農水産物の輸出促進に向けて、平成29年5月に道内6港が連携して策定した「農水産物輸出促進計画」に基づき、水産物の水揚げ時の品質・衛生管理機能の強化、輸出競争力の強化を推進しており、昨年度、根室港において屋根付き岸壁を供用し、今年度は枝幸港において屋根付き岸壁の整備を推進しています。

また、令和7年3月には広尾町（十勝港）の「農林水産物・食品輸出促進計画」が認定され、ハード整備の支援を行ったところであり、産直港湾の取組の進展が期待されます。引き続き、2030年の農林水産物・食品の輸出額を5兆円とする政府目標の達成に貢献するべく取り組んで参ります。あわせて、関係機関と連携し、北海道農水産品の輸出支援、海上コンテナによる小口混載貨物輸送の取り組みを進めて参ります。

「観光」については、函館港、小樽港、室蘭港でのクルーズ船受入環境の改善に向けた取組が進み、道内港湾へのクルーズ船寄港回数は147回（令和7年）を記録しています。人の流れと街の賑わいを作り出し、地域の活性化を図るためにも、クルーズ振興は重要と認識しており、クルーズ振興の取組みの深化を進め、更なる寄港増大による地域活性化に努めてまいります。

また、道内では、みなとオアシスが13港登録されています。地域住民の交流や観光の振興を通じた「みなと」を核としたまちづくりの促進や、クルーズ旅客船の受入環境の提供などの役割を果たしています。

「国土強靱化」に関して、頻発・激甚化する気象災害や日本海溝・千島海溝沿いの海溝型地震等の巨大地震等から国民の生命と財産を守るため、防災・減災、国土強靱化の対策の加速化を図り、岸壁の耐震化や防波堤の高潮・高波対策等の早期効果発現を目指します。既存港湾施設の老朽化が進む中、将来にわたりその機能を発揮させるため、必要な機能の見直し等を計画的に進めながら老朽化対策を推進します。離島にあっては、定期フェリー航路の安定化、物流機能の確保を図るため、港内の静穏度確保や老朽化対策等の港湾施設の整備を推進します。

さらに北海道は洋上風力発電の導入適地として高いポテンシャルを有しており、再生可能エネルギーの新たな需要への対応など、ゼロカーボン北海道の実現に向けて、必要な港湾機能の確保を図っていくことに努めて参ります。

<空港の取組>

空港については、政府の訪日外国人旅行者数の2030年目標6,000万人に向けた今後の航空需要の増大などを見据え、ゲートウェイ機能を発揮していくため、受入環境整備を推進します。

新千歳空港は、旺盛な国内需要に加え、外国人旅客の増加により空港利用者は2025年に2,500万人を超えるなど、我が国5番目の規模を誇る拠点空港であり、国際線旅客数は2025年に約440万人と過去最高の旅客数を記録しました。冬期における航空機の安定運航を図るべく、滑走路除雪時間の短縮や航空機の地上走行の動線確保を目的とした平行誘導路の複線化に取り組むとともに、大規模地震時における航空機重大事故や緊急輸送の停滞等を防ぐため、耐震対策や滑走路端安全区域の整備を進めて参ります。

函館空港においては、滑走路端安全区域や気候変動を踏まえた豪雨時の排水機能強化に関する整備を進めて参ります。

札幌飛行場（丘珠空港）については、現在の滑走路の長さ（1500m）では、小型ジェット機が冬期に就航できず、道外からの需要に十分対応できていません。滑走路の延長（1500mから1800mに300m延伸）によって、道内外を結ぶ航空路ネットワークの拡充が見込まれ、さらに新千歳空港の航空需要の一部を担うことで、新千歳空港の混雑の短期的な対策となり、道央圏空港全体での受入能力の向上が期待できます。引き続き、滑走路延長について、環境影響評価の手続き等を実施します。

結びに、これからも北海道の港湾・空港の整備を着実に進めて参りますので、貴協会並びに会員の皆様のより一層のご支援をお願いいたします。

$R_{H1/3}/H_0'$

b/H_0'

日本港湾空港建設協会連合会 第43回 通常総会開催

日本港湾空港建設協会連合会は令和8年5月13日、第43回通常総会を開催し、令和8年度事業計画等が承認されました。

令和8年度事業計画

1. 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに会員の意見・要望等を掲載した会報を4回／年発行し、会員相互の情報交換を行う。

2. 研修講習会等の開催

港湾空港建設業の社会的地位の確立と技術の開発向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。

日港連セミナーは、中堅技術者を対象に6月には大分県大分市で、また、9月には茨城県水戸市において、さらに10月には経営者及び幹部社員を対象に経営者セミナーを東京都において開催する。

「独占禁止法とコンプライアンスに関する講習会」を一般社団法人日本埋立浚渫協会と共催する。

3. 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に関わる諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を各地区連合会と共同して関係機関に対し実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援する。

4. 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の収集等を行う。
- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約・設計・積算に関する調査研究。
- ④労働・安全・税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に係わる研究調査。

5. 港湾及び空港の整備・振興に関する広報・啓発活動

- ①港湾及び空港の整備・振興に関し、広く社会一般に理解を得るための広報・啓発活動を行う。
- ②港湾及び空港の整備・振興の必要性を広く国政の場に反映するため、関係国会議員等の理解を得るための活動を展開する。



将来の北海道を支える 港湾・漁港・空港建設業の 体制を考える研究会（第6回）

令和8年6月10日（水）札幌ガーデンパレスにおいて、北海道開発局港湾空港部、農業水産部及び港関係7団体により構成された「将来の北海道を支える港湾・漁港・空港建設業の体制を考える研究会（第6回）」が開催されました。

本研究会は北海道の港湾・漁港・空港建設事業に携わる各団体と北海道開発局が官民の垣根を越えて、働き方改革、担い手の確保・育成、生産性の向上のほか、各整備事業の体制強化に資する対策について意見交換を行うことを目的として令和3年度設立されました。

以下に第6回研究会の概要を報告します。

なお、今後も定期的な開催が予定されています。

第6回研究会の概要

第6回研究会では事務局から①令和7年度研究成果報告、②令和8年度の研究事項（案）提案の後、意見交換が行われました。

概要は以下のとおりです。

1. 令和7年度 研究成果

(1) 離島・遠隔地工事に伴う作業員確保

①離島においては港湾工事の労働者確保が困難な状況であり、標準積算における共通仮設費及び現場管理費と実態の乖離が大きい。このため、実態を踏まえ令和7年度から見積活用方式により費用計上。

②遠隔地（本土）においても実態調査を実施。

③実態調査（50件）の結果、平均では官積算を超過しているものの、実態が官積算を上回った地域と下回った地域があり、本年度調査のみでは判断が困難な状況であった。

(2) 異形ブロック型枠搬入個数

①標準積算及び型枠賃料（物価資料）において、型枠搬入数量は製作個数の10%が標準となっている一方、実態は工期短縮、作業効率向上を目的に10%以上の型枠を搬入している事例あり。

②10%以上の型枠を搬入する場合、追加料金が生じることから製作個数と型枠搬入率、ブロック重量と型枠搬入率等の実態を調査。

③調査の結果、全体としては概ね、10%に収束しているが、製作個数が50個以下の場合、データ数が少ないものの、型枠搬入率が10%を超える事例も確認した。

(3) プレキャストの活用による生産性向上

①「港湾工事におけるプレキャスト工法導入検討マニュアル（試行版）」「積雪寒冷地である北海道特有の現場条件を反映した評価手法（設計段階におけるプレキャスト工法の評価手法（北海道版）」）を運用し、活用実績は増加。

②これまでは発注後に受発注者協議によりプレキャスト活用を決定するケースが多かったが現

在は設計段階からプレキャストの活用を検討。

- ③マニュアル等の整備以降、活用事例が着実に増加し、設計段階から導入を検討する取組も定着しつつあることから令和7年度をもって一区切りとする。

(4) 担い手育成・確保の取組み

- ①今後、どのような取り組みが必要か、また、指導・体制作りについて実態把握するため、新卒者及び離職者へのアンケートを実施した。
- ②新卒者について、会社を知った情報元として、「学校（就職担当）の推薦」、「リクルート活動」が多く、入社を決めた理由については「勤務地」、「働き甲斐」、「休暇」の順であった。
また、会社についての印象は「先輩が優しく指導してくれる」、「ものづくりを通じて社会に貢献している」との一方、「目に見えるモノづくりを想像していたが現場の作業は地道な努力が必要だった」との意見も2割程度あった。
- ③離職理由については「仕事のイメージが異なった、性に合わなかった」が40%と最も多く、次に「勤務地が合わない（20%）」、「休暇が取れない（13%）」の順であった。
また、離職後の主な転職先としてはサービス業（36%）、建設業（18%）、コンサルタント関係（9%）であった。

(5) 外国人労働者の港湾漁港空港工事への参入

- ①昨年度（第5回）研究会において、出席委員から「採用判断、安全教育の考え方」「言葉の問題」等についての発言があり、特に「採用基準」について深掘するよう指摘を受けたことから元請企業としての対応についてアンケートを実施した。
- ②結果、外国人労働者を雇用しているのは下請企業であること、外国人労働者を配置する判断基準はないこと（100%）、下請企業に対し、外国人労働者のための安全教育資料等の提出は要求していない（82%）とのことであった。
- ③一方、下請企業が外国人労働者を雇用している場合、語学能力（44%）及び他現場での作業実

績（22%）の確認とともに、工事箇所に入場した場合、最も注意する点として、危険箇所及び危険作業の周知（43%）、作業における指示、確認、声掛けの周知徹底（29%）との結果であった。

2. 令和8年度 研究事項（案）

(1) 遠隔地からの労働者確保の実態把握

令和7年度調査において、遠隔地（本土）における作業員派遣の判断が困難な結果となったことから、令和7年度結果に基づき、特徴的な箇所についてヒアリングを行うとともに、調査票の提出がなかった地域についてデータを蓄積し実態を把握する。

(2) 異形ブロック型枠搬入個数の検討

令和7年度結果を踏まえ、製作個数50個以下の工事を対象にデータの収集・蓄積を行う。

(3) 港湾市場単価の適合性検討

へき地を対象として港湾・漁港における市場単価と実態の乖離状況を調べ、適合性を検討する。

(4) その他



第6回研究会の様子

令和8年 春の褒章受章者

(株)工藤組会長 福西秀和氏が旭日双光章を受章

令和8年春の褒章受章者が発表され、(株)工藤組の福西秀和会長が納税功勞により、旭日双光章を受章されました。

福西会長は、平成4年4月代表取締役役に就任し、一般社団法人北海道法人会連合会副会長を務めるなどの活動を通じて納税に功勞があったことが高く評価されました。

また、平成24年5月から令和8年5月まで函館建設業協会理事も務められ、建設業の発展にも寄与されています。



(株)工藤組
代表取締役会長
福西 秀和 氏
生年月 昭和26年5月

学 歴 昭和49年3月 市立高崎経済大学経済学部経営学科卒業

職 歴 昭和51年2月 株式会社工藤組 入社
昭和61年4月 株式会社工藤組 取締役
昭和63年3月 株式会社工藤組 常務取締役
平成4年4月 株式会社工藤組 代表取締役
平成6年12月 秀鳳産業株式会社設立 代表取締役
令和4年6月 株式会社工藤組 代表取締役会長 現在に至る

団体歴 平成3年1月～12月 一般社団法人函館青年会議所 理事長
平成14年7月～ NPO法人函館エコロジークラブ 理事長
平成24年5月～令和8年5月 一般社団法人函館建設業協会 理事
平成12年8月～ 一般社団法人工藤育英会 理事長
平成29年6月～令和7年10月 函館商工会議所 常議員
令和元年5月～ 公益財団法人函館法人会 会長

賞 罰 平成22年11月 函館税務署長表彰
平成24年7月 国土交通省港湾北海道開発局長表彰（港湾整備事業功績）
平成30年9月 日本商工会議所会頭表彰
令和元年11月 札幌国税局長表彰
令和2年3月 日本港湾空港建設協会連合会長表彰（港湾建設事業功績）
令和4年10月 国税庁長官表彰
令和6年10月 財務大臣表彰
令和8年5月 旭日双光章受章（納税功勞）
令和8年5月 北海道建設業協会会長表彰（特別功勞者表彰）

令和8年 「海の日」 海事関係功労者大臣表彰

国土交通省は毎年、「海の日」に、多年にわたり海事関係事業等に貢献された方々に対して表彰を行っております。

令和8年「海の日」にあたり、当協会関係では株式会社西村組 代表取締役 西村幸浩氏が多年にわたる港湾建設事業の振興に努め、斯界の発展に寄与した功績により海事関係功労者大臣表彰を受賞し、7月22日国土交通省において、表彰式が行われました。

株式会社 西村組 代表取締役

西村 幸浩 氏

生年月：昭和38年9月

略歴：昭和62年4月 (株)西村組入社

平成4年4月 同社 取締役社長室主査

平成6年4月 同社 取締役営業課長

平成8年4月 同社 取締役副社長

平成9年4月 同社 取締役副社長兼
営業副本部長

平成14年4月 同社 代表取締役

現在に至る



令和8年度 漁港漁場関係事業優良請負者 表彰

令和8年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰として株式会社西村組が農林水産大臣表彰、また、勇建設株式会社及び安田建設株式会社が水産庁長官表彰を受賞しました。

本表彰は漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者を表彰するものです。

表彰式は5月14日水産庁において執り行われ、表彰状が授与されました。

【農林水産大臣表彰】



株式会社 西村組
西村 幸浩 氏
代表取締役

会社概要

本社所在地	湧別町
創業	昭和11年
設立	昭和31年
資本金	4,500万円

【水産庁長官表彰】



勇建設株式会社
坂 昭弘 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	札幌市
創業	昭和31年
設立	昭和31年
資本金	1億円



安田建設株式会社
安田 最次 氏
取締役社長

会社概要

本社所在地	枝幸町
創業	昭和27年
設立	昭和31年
資本金	9,800万円

令和8年度 北海道開発局 優良工事等表彰

北海道開発局は工事等に係る技術の向上を目的として、前年度に完成した工事及び完了した業務の中から、優秀な成果を収めた企業及び技術者を表彰しております。

今年度は令和7年度に完成した工事1,295件の中から局長表彰31件（31社）、各開発建設部長表彰70件（73社）が選定され、工事を実施した企業と、その工事に携わった技術者が表彰されました。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①(株)吉本組が施工した「寿都漁港－3 m岸壁建設工事」、②(株)南組が施工した「庶野漁港東護岸建設その他工事」、③渡辺建設工業(株)が施工した「落石漁港（昆布森地区）北防波堤建設工事」の3件（3社）が受賞しました。

開発建設部長表彰は、函館（(株)森川組）、室蘭（北興工業(株)）、釧路（(株)濱谷建設）、網走（(株)西村組）及び稚内（安田建設(株)）が受賞しました。

なお、局長表彰式は7月27日開催されました。また、開発建設部長表彰式は各開発建設部において開催されました。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：寿都漁港－3.0m岸壁建設工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：(株)吉本組

技術者：



山本 朋弘 氏



【表彰理由】

本工事は岸壁屋根の基礎工施工段階において、継続的な湧水が発生したほか、荒天時には波浪による岸壁越流への対応も求められる厳しい工事でした。

このような条件下において現場条件を的確に把握し、施工性及び安全性を十分考慮した止水・排水対策を実施することにより工程への影響を最小限に抑え、出来形、品質とも良好な結果を得ました。

また、ドローン撮影写真やBIM/CIM活用による施工状況、手順の可視化による工事関係者の認識共有を図るなど

創意工夫が図られました。さらにライブカメラによる安全管理の徹底、油漏れ防止資材の事前配備を行い、環境保全にも配慮した施工が行われました。

以上、他の工事の模範となることから表彰されたものです。

○工事名：庶野漁港東護岸建設その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：(株)南組

技術者：



脇坂 渉 氏



〔表彰理由〕

本工事は庶野漁港口部に位置する護岸の建設であり、コンクリート打設において、作業船による海上施工では波浪の影響を受ける等、施工条件が悪いため、防波堤上を安全通行できる仮設道路を設けるとともにバリケードによる安全対策を講じたことにより陸上施工を可能とし、施工効率化を図りました。

また、水中コンクリート打設時に発生するレイタンス処理については型枠に開口部を設け、レイタンスが海上に流出しない構造を採用するとともに汚濁防止膜を併用することにより環境対策に取り組みました。

さらに、大雨により流木が港内に流入した際には漁業活動の妨げにならないよう流木を率先して揚収する等、地域貢献活動にも積極的に取り組みました。

以上、他の工事の模範となることから表彰されたものです。

○工事名：落石漁港（昆布森地区）北防波堤建設工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：渡辺建設工業(株)

技術者：



山白 道敏 氏



〔表彰理由〕

本工事における北防波堤施工箇所は、航路に近接するとともに周辺に定置網等の漁具が設置された厳しい現場条件でした。

このため、マルチビーム測量による漁具位置の把握を行い、漁業者との的確な作業調整を行うとともにUAV空撮による三次元出来形計測を活用し、消波ブロック出来形及び土量をリアルタイムで把握することにより工期短縮や省力化により工事円滑化を実現しました。

また、海上作業ではレーザー距離計により作業船位置を常時確認し、漁船の安全な航行を確保するとともに、カーボンオフセットに配慮した作業機械の使用によるCO₂排出量削減や現場体験学習への協力など地域貢献にも積極的に取り組んだことから他の模範となる工事でした。

【各開発建設部長表彰】

○工事名：函館港弁天地区岸壁ケーソン製作 その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：(株)森川組

技術者：佐々木健吾 氏

○工事名：登別漁港突堤建設その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：北興工業(株)

技術者：森 庄司 氏

○工事名：釧路港島防波堤被覆工その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：(株)濱谷建設

技術者：佐藤 智哉 氏

○工事名：サロマ湖漁港西防砂堤建設 その他工事

発注者：網走開発建設部

施工者：(株)西村組

技術者：高野 寛規 氏

○工事名：枝幸港物揚場－3.5m（西）改良 その他工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：安田建設(株)

技術者：田村 勇治 氏

RH¹³/H⁰

p₁/H⁰

令和8年 「海の日」 港湾空港関係功労者局長表彰

北海道開発局は7月28日、札幌第1合同庁舎において、令和8年「港湾空港関係功労者局長表彰」の表彰式を行いました。

本表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、多大な功労があった方々を対象に実施しています。

当協会関係では港湾・空港建設事業の経営責任者として、港湾・空港工事の推進と発展に尽力された菱中建設株式会社（苫小牧市）代表取締役社長 山崎啓二氏及び萌州建設株式会社（留萌市）代表取締役社長 畑中修平氏が受賞されました。

菱中建設株式会社 代表取締役社長

山崎 啓二 氏

生年月：昭和32年8月

略歴：	昭和53年4月	菱中建設株式会社	入社
	平成22年4月	同社	土木部長
	平成28年1月	同社	取締役執行役員 土木部長
	平成29年9月	同社	代表取締役専務
	令和元年8月	同社	代表取締役社長
			現在に至る



萌州建設株式会社 代表取締役社長

畑中 修平 氏

生年月：昭和35年7月

略歴：	平成5年7月	株式会社ハタナカ昭和	入社
	平成11年6月	同社	代表取締役社長
	平成13年6月	ハタナカ建設株式会社	代表取締役社長
	平成16年10月	合併により萌州建設株式会社に商号変更	
	令和18年9月	萌州建設株式会社	代表取締役社長
			現在に至る



北海道開発局 i-Con奨励賞2026

北海道開発局においては北海道におけるインフラDX・i-Constructionの普及促進を図ることなどを目的として、前年度に完成した工事及び完了した業務の中から、建設現場における生産性向上に資する優れた取組を行った企業を表彰しております。

今年度の表彰は令和7年度に完成した工事及び業務の中から「北海道開発局 i-Con奨励賞2026」が表彰されました。

工事については26件表彰され、港湾部門では2件受賞しました。

表彰式は7月28日北海道開発局において行われました。

以下に各受賞工事の概要を掲載致します。

北海道開発局 i-Con奨励賞2026 受賞

岩倉建設 株式会社

小樽開発建設部発注の「石狩湾新港－12m岸壁工事」が『北海道開発局i-Con奨励賞2026』を受賞しました。

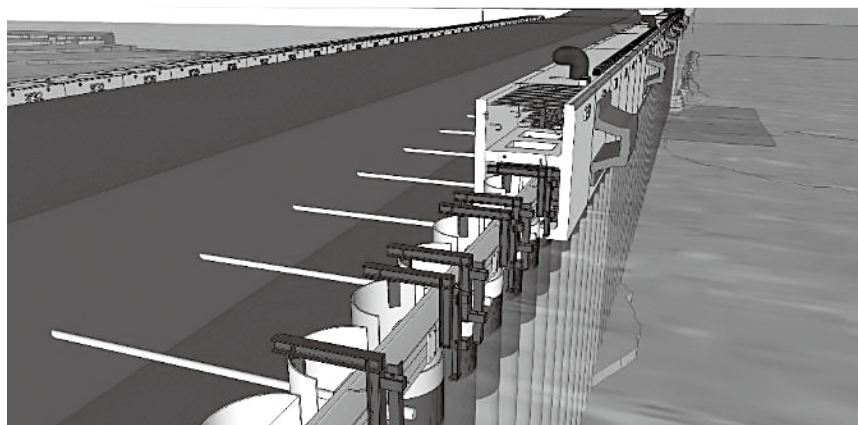
本工事は、石狩湾新港における鉄スクラップ輸出の競争力強化を目指し、令和3年より整備が進む東地区の国際物流ターミナル建設を担う係船岸建設工事です。鋼管矢板式岸壁の施工においては、北海道内で初となる「ハーフプレキャスト式上部工法」が採用されました。現地は大型船舶やタグボート等の往来が頻繁、かつ、広い泊地・航路を有する本港において、航跡波や波浪の影響を受ける状況下で、コンクリート打設前のプレキャスト部材設置時における安全性、出来形、および品質をどのように保持するかが課題となりました。そこで、課題解決に向けた主な取り組みとして、プレキャスト部材の強化架台を3Dモデルによる設計見直し、施工手順に関する詳細な3Dステップモデルの作成、ICT機器を用いた3次元測量による出来形精度向上等を行い、これらをもとに発注者および施工関係者との確実な情報共有を通じて、施工の効率化と確実な品質確保を両立し、無事に工事を完了させることができました。



工事円滑化会議での3Dモデル活用



ICT施工現場端末アプリ『快測ナビ』活用



3Dモデル

北海道開発局 i-Con奨励賞2026 受賞

株式会社 高木組

函館港弁天地区ー5.0m岸壁建設工事でi-Con奨励賞2026を受賞することができました。本工事は、函館港弁天地区船だまり整備事業にかかる岸壁改良として、海上地盤改良工、基礎工、本体工等の整備を行う工事です。

本体工（ケーソン据付）において、設置済みのケーソン間に据付けるといった施工精度が求められ、かつ航行船舶に影響を与えないよう施工制約がある中で、ケーソン据付作業をICT施工にすることで、据付指示者がケーソン位置情報をリアルタイムで確認可能となり、施工精度の向上が図られました。また、計測の自動化により、計測確認作業人員を1名程度に削減可能となりました。

また、現場事務所から作業ヤードまで離れているため、遠隔カメラ(気象情報表示機能付き)を導入することで、現場事務所に居ながら現場状況の把握や作業中止判断を行うことが可能となり、移動時間の短縮に繋がりました。

引続き品質確保、安全確保、働き方改革等に寄与するICT技術の活用に積極的に取り組んでまいります。

【ケーソン据付時のICT施工による生産性向上】



自動追尾型トータルステーション



タブレットによるケーソン据付確認



【遠隔カメラによる効率的な現場管理】



遠隔カメラ設置状況



モニター画面



モニター画面

令和 8 年度 (公社)日本港湾空港建設協会連合会 会長賞表彰 港湾功労者賞

北海道港湾空港建設協会から 9 名受賞

経営合理化、工費適正化、技術向上、作業効率化及び従業員の労務・厚生改善等により協会発展に尽くされた功績により、日本港湾空港建設協会連合会第43回通常総会において、当協会から以下の方々が会長賞を受賞されました。

代表者表彰



鈴木 泰至 氏

生年月 昭和29年 1 月

岩倉建設(株) 代表取締役社長

略 歴

昭和53年 4 月 岩倉組土建(株) (旧社名) 入社
平成21年11月 岩倉建設(株) 取締役執行役員
土木部土木部長
平成23年 4 月 同社 常務取締役執行役員
土木総括
平成28年11月 同社 専務取締役執行役員
平成30年11月 同社 代表取締役社長
現在に至る



佐藤 慶一 氏

生年月 昭和34年 5 月

近藤工業(株) 代表取締役社長

略 歴

平成15年 1 月 近藤工業(株) 入社
同社 常務取締役
平成16年 5 月 同社 専務取締役
平成17年 8 月 同社 代表取締役社長
現在に至る

従業員表彰 (順不同)



門脇 博雅 氏

生年月 昭和36年 3 月

白崎建設(株) 工務部工事課長

略 歴

昭和54年 白崎建設(株) 入社
平成14年 同社 工務部工事課長
現在に至る



新山 利春 氏

生年月 昭和38年 5 月

藤建設(株) 土木次長

略 歴

昭和58年 藤建設(株) 入社
令和 3 年 同社 土木次長
現在に至る



北野 泰輔 氏
生年月 昭和47年 6 月
機械開発北旺(株) 工事部次長

略 歴

平成 7 年 4 月 北海道機械開発(株) 入社
平成20年10月 北旺建設(株)を吸収合併して商号を機械
開発北旺(株)となる
平成27年 4 月 機械開発北旺(株) 工事部工事担当課長
令和 4 年 4 月 同社 工事部次長
現在に至る



川島 貢 氏
生年月 昭和47年 9 月
近藤工業(株) 取締役土木部長

略 歴

平成 5 年 4 月 近藤工業(株) 入社
令和 5 年 5 月 同社 土木部長
令和 8 年 7 月 同社 取締役土木部長
現在に至る



井塚 洋樹 氏
生年月 昭和49年 2 月
(株)山田組 土木事業部工事長

略 歴

平成 8 年 4 月 (株)山田組 入社
平成29年 4 月 同社 工事主任
平成31年 4 月 同社 土木事業部工事長
現在に至る



山白 道敏 氏
生年月 昭和49年 9 月
渡辺建設工業(株) 取締役工事部長

略 歴

平成 5 年 渡辺建設工業(株) 入社
令和 4 年 同社 取締役工事部長
現在に至る



長内 久 氏
生年月 昭和50年 1 月
(株)菅原組 工事本部 工事部
工事課 工事長

略 歴

平成 7 年 4 月 (株)菅原組 入社
令和 4 年 6 月 同社 工事本部工事課工事長
令和 5 年 6 月 同社 工事本部工事部工事課
工事長
現在に至る

$R_{H^{1/3}/H_0'}$

b/H_0'

令和8年度 （公社）日本港湾協会 港湾功労者表彰

永年に亘り港湾に関する職務に従事し、功績が特に顕著であること、港湾の管理運営振興、計画設計、施工の各部門に関して研究、実施等に特に顕著な成果をあげ、他の模範となる方を対象に表彰している令和8年度（公社）日本港湾協会 港湾功労者に当協会会員企業の以下の方々が受賞されました。

北海道港湾協会推薦



高橋 啓司 氏

生年月 昭和39年12月

あおみ建設(株) 北海道支店次長

略 歴

昭和58年 北海道開発局
令和4年 釧路開発建設部 釧路港湾事務所長
令和7年 あおみ建設(株)北海道支店 次長
現在に至る



廣部 俊夫 氏

生年月 昭和39年7月

(株)ササキ札幌支店 技術顧問

略 歴

平成元年 北海道開発局
令和4年 留萌開発建設部 留萌港湾事務所 副所長
令和7年 (株)ササキ札幌支店 技術顧問
現在に至る

（一社）日本埋立浚渫協会推薦



岡 睦夫 氏

生年月 昭和35年11月

**五洋建設(株) 札幌支店
シニアエキスパート副支店長**

略 歴

昭和58年 五洋建設(株) 入社
平成29年 五洋建設(株)札幌支店 副支店長
令和2年 五洋建設(株)札幌支店 シニアエキスパート
副支店長
現在に至る

$RH^{1/3}/H_0'$



b/H_0'

(公社)日本港湾協会企画賞 産学官連携による 土木模型製作プロジェクト

函館港湾事務所

函館港湾事務所、函館工業高等専門学校及び函館港湾事務所工事安全連絡協議会が連携して取り組む「産学官連携による土木模型製作プロジェクト」が日本港湾協会企画賞を受賞し、令和8年5月27日に横須賀市で開催された日本港湾協定会時総会において表彰されました。

本プロジェクトは令和7年度から始まり、港湾施設等の模型製作を通じて、学生には行政や建設業の仕事を疑似体験できる教育プログラムを提供するとともに、若手技術者には学生との協働を通じた技術力の向上を図る取り組みです。模型の製作は、社会人チーム、学生チームに分かれて行いますが、各チームにおいてテーマ、コンセプトを議論し、製作する模型を決定、模型の概略設計と製作費用の算定を行った後、予算獲得ヒアリングを経て必要な予算を確保し、材料を調達して製作を行う仕組みとなっています。

製作した模型は、「はこだてカルチャーナイト2025」に出展され、土木模型の説明や体験を通じて、子供たちに津波災害時における港湾インフラの重要性や港湾工事の仕組み・技術をわかりやすく伝えたほか、「はこだて防災マルシェ2025」、「Sea級グルメ全国大会inあおもり」などにも出展し、多くの来場者に港湾土木の魅力を発信しました。

令和8年度からは、本プロジェクトに函館工業高校が加わるほか、官は函館港湾事務所から函館開発建設部へ、民は工事安全連絡協議会から（一社）函館建設業協会に移行するなど、より発展、広がりのある取り組みになりつつあります。

高専チーム製作模型
(津波に対する防波堤効果を検証)



社会人チーム製作模型
(消波ブロック据付体験)



はこだてカルチャーナイトへの出展



表彰式の様子



表彰状

令和8年度 （一社）日本海上起重技術協会 会長表彰

（一社）日本海上起重技術協会は令和8年5月11日 第40回通常総会終了後、功労者表彰式を行いました。
今年度、道内から業務精励功労者として2名が表彰されました。

【業務精励功労者】



松山 周二 氏

生年月 昭和40年8月

(株)富士サルベージ 工事部参与

略 歴

昭和61年6月 (株)富士サルベージ 入社
昭和61年6月 起重機船第5新高丸 乗船
平成17年4月 起重機船第5新高丸職長
平成26年4月 工事部工事課長
令和8年4月 工事部参与
現在に至る



新谷 隆司 氏

生年月 昭和36年7月

(株)西村組

略 歴

平成6年5月 (株)西村組 入社
平成14年5月 120t吊起重機船兼4m³グラブ浚渫船
第35西村号船団長
平成20年6月 2.2m³バックホウ浚渫船
第27西村号船団長
現在に至る

第44回 （一社）全日本漁港建設協会表彰

全日本漁港建設協会表彰は漁港建設業界、漁港漁場建設事業等の発展のために多大の貢献をされた方にその業績を称え、広く顕彰するもので、会員の代表者、従業員等が受賞対象となっています。

今般、特別功労者として、技術委員会委員の立場で漁港建設協会発展のためその職に尽瘁されたものとして以下の方が表彰されました。

【特別功労者】



千葉 不二夫 氏
生年月 昭和32年 6 月
勇建設(株) 常務取締役

略 歴

昭和51年 北海道開発局
平成29年 函館開発建設部 次長
平成30年 勇建設(株) 技術顧問
令和 2 年 常務取締役
現在に至る

令和 8 年度 全国浚渫業協会 港湾功労者 表彰

全国浚渫業協会は港湾・漁港・空港・河川・湖沼におけるグラブ式浚渫工事を担っている建設業者により構成されています。

今年度、港湾功労者として道内から 1 名表彰されました。



土田 良文 氏
生年月 昭和44年 5 月
(株)西村組 工事長

略 歴

平成 4 年 4 月 (株)西村組 入社
平成14年 4 月 同社 主任
令和 2 年 4 月 同社 工事長
現在に至る

令和7年度 全建賞 北海道歯舞地区直轄漁港 整備事業

釧路開発建設部根室港湾事務所

「北海道歯舞地区直轄漁港整備事業」が、一般社団法人全日本建設技術協会から令和7年度「全建賞」を受賞しました。本事業は、直轄事業による屋根付き岸壁・人工地盤・アクセス道路の整備と漁協事業による高度衛生管理型市場の整備を一体的に進め、水産物の衛生管理向上・用地不足の解消・津波来襲時の一時避難機能・海業振興を同時に実現するとともに、3DVRを活用した関係者との合意形成を効果的に行った点が評価されました。

歯舞漁港では、利用する漁船や漁獲量が多く、漁港内は漁業者や出荷車両により混雑しているほか、屋根付き岸壁の不足により、水産物の流通・衛生管理に課題が生じていました。また、根室沖での巨大地震に伴う津波による漁業者らの安全の確保や、水産庁が推進する海業振興への対応も課題となっていました。

国による屋根付き岸壁等の整備と、歯舞漁協による交流機能を併せ持つ高度衛生管理型市場の整備が連携し、一体的に進めたことにより、水産物の流通・衛生管理対策の向上、用地不足の解消、津波来襲時の一時避難機能や交流機能など、複数の機能の同時確保を実現し、令和4年8月から供用を開始しました。

本事業の実施により、歯舞漁港は北海道で初めて一般社団法人大日本水産会の定める「優良衛生品質管理市場・漁港」に認定されました。また、市場施設においては、修学旅行生の受入れや地域住民を対象とした避難訓練に活用されるなど、都市と漁村の交流拠点や防災拠点として機能しています。今後も、都市と漁村の交流を通じた地域活性化への貢献が期待されます。



歯舞漁港人工地盤関連施設の全景



屋根付き岸壁での陸揚げ状況